

大野市教育環境調査研究委員会

会議結果概要

日 時：令和8年2月20日（金）午後7時00分～8時50分

場 所：結とぴあ 201・202号室

<出席者>

大野市教育環境調査研究委員会 出席者名簿

No.	所属等	氏名	分類	備考
1	国立大学法人福井大学	まつぎ けんいち 松木 健一	第1号委員	客員教授
2	大野市小中学校校長会	ますだ よしひろ 増田 善宏	第2号委員	開成中学校長
3	大野市PTA連合会	うえだ ともあき 上田 智亮	第3号委員	監事
4	大野市立保育園保護者連合会	なかむら ふみのり 中村 史典	第3号委員	副会長
5	大野民間こども園保護者会連合会	くにえだ ゆうき 國枝 裕輝	第3号委員	会長

大野市教育委員会出席者名簿

No.	所属等	氏名	職名	備考
1	大野市教育委員会	くほ としたけ 久保 俊岳	教育長	
2	大野市教育委員会	やまざき かつひこ 山崎 勝彦	事務局長	
3	大野市教育委員会 教育総務課	とくら いくよ 土蔵 郁代	課長	
4	大野市教育委員会 教育総務課	やまかわ りゅういち 山川 龍一	学校教育審議監	
5	大野市教育委員会 教育総務課	みやした きんや 宮下 欣也	企画主査	
6	大野市教育委員会 教育総務課	ふじね まゆ 富士根 麻裕	企画主査	

<傍聴者>

0人

大野市教育環境調査研究委員会次第

と き 令和8年2月20日（金）
午後7時より

ところ 結とびあ201・202号室

1 開会、委嘱状交付

2 教育長あいさつ

3 正副委員長選出

4 議事

(1) 大野市教育環境調査研究委員会について

(2) 大野市の教育の現状について

小中学校再編の現状

中学校部活動の現状、休日部活動地域移行の進捗

18年をつなぐ教育、大野っ子育成プラン、ウェルビーイングな学校づくり

学校数及び児童生徒数と学級数の推計

(3) 教育の現状や展望について<ウェルビーイングな学校づくり>

松木健一 福井大学客員教授から講話

(4) 今後の大野市の教育に関する意見交換

5 その他

6 閉会あいさつ

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長あいさつ

本日はご多忙のところ、教育環境調査研究委員会にご参集いただき、誠にありがたく存ずる。委員各位ならびにオンラインでご参加の松木先生にも、心より御礼申し上げます。また、日頃から大野市の教育行政にご理解とご協力を賜っていることに対し、この場を借りて深く感謝申し上げたい。

大野市においては、近年の少子化の進行、社会構造の急速な変化、そして学校制度の見直しなど、多方面にわたる課題が同時に進行している。こうした状況は、従来の枠組みにとらわれない柔軟な発想と、中長期的視野に基づく教育環境の再構築を求めるものである。本市が進めてきた学校再編も、その一環として位置づけられており、持続可能な教育体制をいかに築くかという点で極めて重要な取り組みである。

その際には、松木先生をはじめ多くの方々にご助言をいただき、遠方より足を運んでいただいたことを、今でも鮮明に記憶しているところである。改めて深く感謝申し上げます。

本委員会は、答申を得て終了するものではなく、毎年継続して開催し、各分野・各立場の皆様から率直な意見を伺いながら、教育行政の方向性をともに考えていく場として設置している。社会情勢が急速に変化する今日においては、固定的な計画では対応しきれない課題が多く、むしろ継続的に議論を重ねることが必要不可欠である。また、専門的知見を有するの方々から現場の状況を踏まえた示唆をいただくことが、本市の教育の質を高めるうえで大きな力となっている。

本日は、皆様がお持ちの実践経験や日頃感じておられる課題、地域での教育に関する思いなどを、どのような内容であっても忌憚なくお聞かせいただきたい。それら一つひとつのご意見が、大野市の教育をより良い方向へ進める重要な手がかりとなるものである。委員各位とともに、本市が目指す子どもに寄り添った教育環境づくりを着実に進めてまいりたいと考えている。

どうぞ本日もよろしくお願い申し上げます。

3 正副委員長選出

委員長に松木健一委員、副委員長に増田善宏委員を選出することを、全会一致で決定した。

4 次第

(1) 大野市教育環境調査研究委員会について

――事務局から資料配布、説明――

(2) 大野市の教育の現状について

――事務局から資料配布、説明――

【委員からの主な意見】

- 家庭教育支援の必要性（家庭環境格差・学び支援体制の強化）
- 地域クラブ指導者の質保証（研修・評価の仕組みの必要性）
- 発達特性のある児童の小学校進学時の支援（関係性断絶の懸念）
- 中学校進学時の不安（通学・環境変化）への対応強化
- 小学校制服・体操服の統一化と共同調達による負担軽減
- ランドセルなど学用品の標準化案
- スクールバス降車後の安全確保（街灯設置・地域協力）

【事務局回答】

- 体操服・学用品：児童アンケートに基づき決定、今後も議論可能。
- 学用品統一：多様な価値観を踏まえつつ提案を検討。
- スクールバス：毎年ルート見直し、地域との連携で安全確保。
- 地域クラブ指導者：研修・認定制度で質の担保を図る。

(3) 教育制度の現状や展望について（ウェルビーイングな学校づくり）

【松木委員長から説明】

1. 大野市教育の転換期におけるウェルビーイングの意義

学校再編・少子化・地域連携の再構築が進む現在の_{大野市}において、教育の質を高める鍵がウェルビーイングである。ウェルビーイングとは「子ども・保護者・地域・教職員のすべてが安心感・成長感・つながりを感じ

ながら過ごせる生き生きとした状態」を指し、教育の中心価値として位置づけられるべきである。

2. ウェルビーイングの本質：数値では測れない主観的幸福感

ウェルビーイングは身体的・精神的・社会的側面が調和した状態であり、点数や進学率などの“客観的指標”だけでは測れない。子ども自身が「自分らしくいられる」「つながりを感じる」といった主観的幸福感を持てることが教育の核心である。

3. 学校は「生きることそのもの」を学ぶ場へ

従来“正解を覚える学習”から脱却し、以下の3つの柱を中心に学校の学びを再構築する必要がある。

- ・ 探究：やってみたいという興味から始まる学び
- ・ 協働：他者と支え合い、視点を交換し合う学び
- ・ 主体性：自ら決め、自ら変わろうとする力

これらは相互に支え合いながら、子どもが自らの生き方を形づくる基盤となる。

4. 探究の「2つのドーナツ」モデル

探究心には「事物への探究（知的好奇心）」と「人との関わりへの探究（社会的好奇心）」の2つが存在する。この2つの探究領域は完全には重ならないが、友人や教師との関わりが新たな興味を生み、学びの輪が広がっていく。子ども同士の関係が探究を自然に拡張させる。

5. 異質性（多様性）が学びを強くする

発達特性のある子どもや、多様な背景を持つ仲間とともに学ぶことは、互いの違いを理解し支え合う経験を生む。地域人材や外部専門家が参加することで視点が多様化し、探究の質がより深まる。違いによる“ズレ”を乗り越える過程こそがレジリエンスを育て、教育の力となる。

6. ウェルビーイングは「生き方」で示されるもの

幸せや生きる意味は言葉だけでは語り尽くせない。ウェルビーイングは大人の態度・行動・ふるまいによって示されるものである。学校はその“生き方”を日々体験できる場でなければならない。

7. 大野市がめざすウェルビーイングの循環

以下の“幸福の循環”こそが大野市の教育がめざす未来像である。

「子どものウェルビーイング → 保護者のウェルビーイング → 地域のウェルビーイング → 教職員のウェルビーイング → 再び子どものウェルビーイングへ」

この循環が成立することで、教育と地域が持続的に良くなっていく。

(4) 今後の大野市の教育に関する意見交換

【増田副委員長】

学校現場にいる立場から感じるのは、家庭環境の影響により、子どもたちが十分に幸福感を得られない場面が少なくないということである。子どもが人としての土台を形成するのは本来家庭であり、家庭教育こそが子どもの成長の基盤となると考える。

しかし、家庭教育は体系的に教えられるものではなく、保護者自身の育ちや経験に依存している側面が大きい。そのため、保護者が学びを深められる機会を設けることが必要であると感じている。行政、学校、福祉部局、地域団体などが連携し、家庭教育を支えるための仕組みを組織的に構築することが望ましいと考える。

このように家庭教育の支援と充実を図ることが、最終的には子どもたちのウェルビーイングの向上につながるものと考えている。

【中村委員】

休日部活動の地域移行に際し、指導者の指導方法が適切に管理されているかが大きな不安要因であると感じている。指導者によっては、子どもの主体性を引き出す問いかけ型の指導ではなく、叱責的で一方的な指導が行われる可能性があり、そのような差は子どものウェルビーイングに直結するため看過できない。

そのため、行政あるいは第三者機関が、地域クラブの指導者の指導方針や指導姿勢を一定の基準で確認し、保護者が安心して活動を選べるよう情報を明ら

かにする仕組みが必要であると考え。指導者を変更したくても受け皿が少ない現状では、なおさら質の担保が求められる。

【國枝委員】

現在、自分の子どもが通うこども園のクラスには、感情のコントロールが苦手な児童がいるが、4年間ともに過ごしてきた中で、周囲の子どもたちが自然と接し方を学び、良好な人間関係が形成されている状況がある。このような相互理解や支え合いは、まさにウェルビーイングにつながる大切な関係性であり、園で育まれている連帯のよさを実感している。

しかし、小学校再編や通学先の選択の関係で、同じ園で良い関係を築いた子ども同士が、就学時に別々の小学校に進む場合も多い。その結果、これまで築いてきた人間関係が途切れ、発達特性のある子どもが新しい環境で再び関係を構築し直さなければならない状況が生じる可能性がある。この点に大きな不安を感じている。

校区変更により保護者が選択できる制度もあるものの、実際には容易に利用できない場合もある。今後、このような子どもたちがスムーズに小学校生活へ移行できるよう、どのような支援や配慮が必要となるのか、継続的に検討していただきたい。

【松木委員長】

ご意見を伺い、向き合うべき課題の多さを感じる。一方で、発達障害のある子どもが最もつまづきやすいのは小学校1年生ではなく、むしろ3～4年生頃と言われており、今春1年生として就学される段階では、過度に心配されなくてもよい。

子ども同士の関わりにおいて、最も大きな転換点となるのはおおむね小学校3～4年生頃であり、この時期に人間関係の広がりや社会性の発達が大きく進む。そのため、感情面の支援や学級内の助け合いの仕組みは、学校全体として計画的に整える必要があると感じている。

園においては、保育者が子どもの発達段階を理解し、困り感のある児童へのサポートを行いつつ、周囲の子どもたちにも自然な関わり方が身につくよう働きかけている。こうした日々の取り組みは、確かにウェルビーイングの観点から価値のある実践である。しかし同時に、こうした支援体制が保護者にも見えにくいことから、どのような配慮が行われているのかを分かりやすく示すことも重要である。

また、子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、園や学校だけでなく、家庭や地域においても大人が同じ方向性を共有する必要がある。子どもが得ている支援や学びを、家庭や地域とどのように繋げていくのか、保護者にとってどのような意味づけとなるのかという視点も欠かせない。

その意味で、教育現場がどのような支援を行い、どのような価値を子どもに届けているのかを、保護者に対して明確に示していくことが求められている。こうした連携が深まることで、子どもにとってよりよいウェルビーイングの循環が生まれるのではないか。

【上田委員】

大野市がウェルビーイングを大切にした教育づくりを進めていることは大変ありがたいと感じている。一方で、実際に子どもが小学校から中学校へ進学する際には、子ども・保護者双方に大きな不安が生じる場合がある。特に、従来の地域の中学校から離れ、開成中学校へバス通学することになると、環境が一変し、友人関係も新たに築き直す必要が生じる。兄弟のいない家庭ではこの不安がさらに大きい。よって、進学前に小学校間・中学校との交流の機会があり、顔見知りの関係が少しでも増えると、子どもも保護者も安心できるのではないかと考える。

また、出生数の減少傾向から見ても、今後、再び小学校再編の議論が避けられない可能性が高い。PTAでも、将来を見据えて小学校の制服・体操服などを統一し、共同調達する方向性が議題に上がっている。現在は1校当たりの発注数が少なく価格も高くなりがちであるが、全校で統一すれば年間の発注数が増え、価格を抑えられる可能性がある。再編が発生するたびに買い替えが必要となる負担も軽減できるため、早い段階から検討する価値があると考えます。

さらに、子どもが小学校に進む際、今までのつながりを断ち切って新しい学校へ入るよりは、可能な範囲で慣れ親しんだ環境を維持できる方が望ましいという意見も身近な保護者から聞く。こうした声を踏まえ、今後の学校再編や教育環境整備の検討において、子ども・保護者の心理的負担を軽減する視点も重視してほしい

【松木委員長】

正に保護者ならではの目線からのご意見だと思う。

【中村委員】

保護者として感じている点を2つ述べたい。

第1に、ランドセルや制服などの購入負担についてである。最近ではユニクロが制服を扱っていたり、富山県ではモンベル製のランドセルを導入している例もあると聞く。そのような既存メーカーと連携し、ランドセルや制服、体操服などを一式で提供する仕組みを整えることができれば、保護者としては非常に助かる。特に祖父母世代にとっても、どこで何を選べばよいかと迷う負担が減り、購入の手間も省ける。毎年一定数の購入が見込まれるため、業者間での比較検討（コンペ）を行い、品質・価格ともに適切な業者に継続的に発注できれば、効率も高まり、保護者の経済的負担の軽減にもつながると考える。

第2に、通学の安全確保についてである。陽明中学校区の中学生の帰宅時には、暗い時間帯に1人で歩く姿を見かけることがある。自分の住んでいる蕨生地区は熊の出没が懸念される地域でもあり、バスを降りてから自宅までの区間が必ずしも安全とは言い切れない。可能であれば、スクールバスの運行ルートを自宅付近により近い地点まで調整するなど、安全に配慮したルート設定ができないか検討してほしいという思いがある。

以上の2点について、保護者として不安や負担の軽減につながる改善が進むことを期待している。

【上田委員】

現在、中学生の子どもがバス通学をしているが、降車場所までは複数人で歩けるものの、そこから自宅まではどうしても1人になってしまう。大野市の地理的状况を考えると、この区間が特に心配である。冬季は16時台でも周囲が暗く、12月・1月は真っ暗な中を帰宅することも多い。熊の出没も地区によっては無視できず、親が毎日迎えに行ければ理想ではあるが、現実には難しい家庭も多い。

そのため、自宅までの帰路の安全を確保するために、街灯の増設など、まちづくりと連動した対策を検討していただきたい。スクールバス降車後の安全確保について、もう一段具体的な環境整備を求めたい。

【委員長】

事務局として、今の意見も踏まえて、補足すべき点があればお願いしたい。

【教育長】

では、事務局で答えられるところに関して答えていきたい。

制服や体操服についてであるが、体操服については、陽明中学校と開成中学校の双方で生徒にアンケートを実施したところ、両校の回答がほぼ同じ結果と

なり、現在の色やデザインに近いものが選ばれた経緯がある。これまでの着用実績や児童の好みも影響していると考えられる。したがって、仮に小学校全体で統一を図った場合でも、子どもたちが選ぶ傾向は似たものになる可能性がある。とはいえ、服装の変更や統一についてはPTAを含む保護者でも考えて、意見交換しておいていただけるとありがたい。今後もみなさまと議論しながら方向性を検討していきたい。

また、ランドセルについても、ナップランドなど別のかばんを使用している学校もある。統一を急ぐのではなく、モンベル等の市販品を含めて自由選択の幅を確保することが望ましいと考えている。行政として特定の製品に決めることは可能ではあるが、多様な価値観がある以上、関係者で協議し、納得できる選択肢を模索することが大切である。

最終的にどのような結論になるかは未定であるが、異なる考え方を持つ保護者とも意見交換を重ね、より良い形を共に作り上げていくことが重要であると考えている。私たちとしても積極的に議論に参加し、皆様のご意見を伺いながら検討を進めていく所存である。

【教育委員会事務局長】

スクールバスについて回答する。スクールバスで通学する児童の居住地は毎年変化するため、それに応じてバスの運行ルートも毎年見直している。すべての家庭の前まで迎えに行くことは現実的ではないが、できる限り安全に配慮した停留所設定に努めている。停留所の場所については、区長や地域住民と相談のうえで決定している。

また、停留所周辺が暗い場合には、地域の協力により照明をつけるなどの対応も考えられるほか、保護者にも可能な範囲で迎えに来ていただく必要があると考えている。地域・保護者・行政が協力し合いながら、子どもたちの安全を高めていきたい。

【学校教育審議監】

地域クラブの指導者に関するご意見についてであるが、基本的にはご指摘のとおりである。競技ごとに個別に対応することは難しい面もあるが、指導者研修会についてはスポーツ推進課が主催しており、今後も継続して実施していく予定である。また、これから導入する地域クラブの認定制度においては、研修の受講歴が認定要件として位置づけられるほか、実際の活動現場を視察し、指

導が適切に行われているかを確認したうえで認定する仕組みを整えている。これらにより、指導者の質については徐々に改善が進むものと考えている。

また、通学時の暗さなど安全面に関する話題に関連して、過去に開成中学校の校長を務めていた際、地域の方々に「子どもが帰宅する時間帯には玄関の明かりをつけてほしい」とお願いしたことがある。明るさそのものに大きな変化はないものの、家の明かりが灯っていることは子どもにとって大きな安心感につながった。このように、地域ぐるみで子どもを見守る取り組みは大変重要であり、今後も地域の皆様と協力しながら安全確保に努めていくことが望ましいと考えている。

【委員長】

本日は、委員の皆様から多くの貴重なご意見をいただき、誠に感謝申し上げます。本日の協議内容については、事務局にて改めて整理し、教育委員会へ報告・共有する予定である。

6 閉会

【副委員長】

松木委員長ならびに委員の皆様、本日は貴重なご意見を賜り、誠に感謝申し上げます。いただいたご意見は、市教育委員会において今後の教育環境の充実にしっかりと生かしていただきたいと考えている。

終了 午後8時50分